

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年11月11日
【四半期会計期間】	第68期第2四半期（自平成23年7月1日至平成23年9月30日）
【会社名】	株式会社 銀座山形屋
【英訳名】	GINZA YAMAGATAYA CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山形 政弘
【本店の所在の場所】	東京都中央区築地三丁目5番4号
【電話番号】	03(3545)4731(代表)
【事務連絡者氏名】	管理部長 渡辺 光潤
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区築地三丁目5番4号
【電話番号】	03(3545)4731(代表)
【事務連絡者氏名】	管理部長 渡辺 光潤
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第67期 第2四半期連結 累計期間	第68期 第2四半期連結 累計期間	第67期
会計期間	自平成22年 4月1日 至平成22年 9月30日	自平成23年 4月1日 至平成23年 9月30日	自平成22年 4月1日 至平成23年 3月31日
売上高(千円)	2,058,089	1,826,567	4,362,773
経常損失()(千円)	180,057	213,704	204,693
四半期(当期)純損失()(千円)	391,612	234,357	405,635
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	446,657	173,593	483,152
純資産額(千円)	2,682,613	2,472,412	2,646,044
総資産額(千円)	3,975,165	3,795,347	4,000,531
1株当たり四半期(当期)純損失金額 ()(円)	22.68	13.57	23.49
潜在株式調整後1株当たり四半期(当 期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	67.5	65.1	66.1
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	149,531	249,158	95,175
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	26,111	5,913	117,759
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	1,843	2,853	3,848
現金及び現金同等物の四半期末(期 末)残高(千円)	555,127	441,200	699,126

回次	第67期 第2四半期連結 会計期間	第68期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成22年 7月1日 至平成22年 9月30日	自平成23年 7月1日 至平成23年 9月30日
1株当たり四半期純損失金額() (円)	11.55	13.87

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期(当期)純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4 第67期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要とともに回復の兆しが見え始めているものの、エネルギー問題、欧米景気の減速、円高の影響などを受け、依然として景気の先行きは不透明な状況で推移しました。

当業界におきましては、節電対応としてのクールビズ関連の影響が消費者の購買意欲に変化をもたらす傾向が見られるようになりました。

このような経営環境のなか、当社グループは「世界一のオーダーメイド企業をつくる」を合言葉にオーダーメイドを柱に、3基幹ブランド(「銀座山形屋」「サルトリア プロメッサ」「ミスターナ」)の複合店を出店するなど、お客様満足度の向上に努めながら、独自性のある展開を推し進めてまいりました。

しかしながら、猛暑対策としてのクールビズの更なる浸透により、主力のオーダーメイド販売が低調な結果となりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の実績といたしましては、売上高は18億2千6百万円(前年同四半期比11.2%減)となり、販売費及び一般管理費の削減等に努めたものの経常損失は2億1千3百万円(前年同四半期は1億8千万円の経常損失)となりました。また、四半期純損失は減損損失の計上等があり2億3千4百万円(前年同四半期は3億9千1百万円の四半期純損失)となりました。

なお、店舗の状況につきましては、不採算1店舗を閉鎖し、前述の3基幹ブランド複合店1店舗を出店した結果、当第2四半期連結累計期間における店舗網は、(株)ウイングロード25店舗、日本ソーイング(株)5店舗であり、グループ合計で30店舗となっております。

セグメント別では、小売事業が売上高8億8千6百万円(前年同四半期比13.6%減)、セグメント損失1億5千2百万円(前年同四半期は1億4千4百万円のセグメント損失)、卸売事業が売上高6億5千2百万円(前年同四半期比12.5%減)、セグメント損失6千7百万円(前年同四半期は5千6百万円のセグメント損失)、受託縫製事業が売上高2億7千万円(前年同四半期比1.1%減)、セグメント損失1億1百万円(前年同四半期は5千7百万円のセグメント損失)となりました。

(2)キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)の残高は4億4千1百万円で前連結会計年度末に比べ2億5千7百万円減少(前年同四半期は1億2千5百万円の減少)いたしました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、2億4千9百万円の減少(前年同四半期は1億4千9百万円の減少)となりました。これは主に、売上債権の減少5千9百万円等による収入があった一方で、税金等調整前四半期純損失2億1千8百万円の計上や仕入債務の減少5千万円等があったことが主な要因であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、5百万円の減少(前年同四半期は2千6百万円の増加)となりました。これは貸付金の返還による収入が1千4百万円があった一方で、有形固定資産の取得による支出2千1百万円があったことが主な要因であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、2百万円の減少(前年同四半期は1百万円の減少)となりました。これはリ・ス債務の返済による資金の減少2百万円があったことによるものであります。

(3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4)研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	35,706,000
計	35,706,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年11月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	18,044,715	18,044,715	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は1,000株であります。
計	18,044,715	18,044,715	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
平成23年7月1日～ 平成23年9月30日	-	18,044,715	-	2,727,560	-	242,303

(6) 【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社カネヨシ	東京都渋谷区千駄ヶ谷3丁目60-5	5,600	31.03
山形 政弘	東京都世田谷区	827	4.58
G Y 会持株会	東京都中央区築地3丁目5-4	752	4.16
金澤 良樹	東京都国分寺市	690	3.82
B T C 協同組合	東京都千代田区神田須田町2丁目1	512	2.84
中島 眞喜子	神奈川県川崎市麻生区	374	2.08
田辺 友紀恵	東京都世田谷区	374	2.08
カネ美食品株式会社	愛知県名古屋市天白区中坪町90番地	250	1.39
東京注文服専門店会協同組合	東京都千代田区神田須田町2丁目1	245	1.36
G Y 従業員持株会	東京都中央区築地3丁目5-4	242	1.34
計	-	9,867	54.68

(注) 上記には当社所有の自己株式779千株(持株比率4.32%)は含まれておりません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 779,000	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 17,194,000	17,194	同上
単元未満株式	普通株式 71,715	-	同上
発行済株式総数	18,044,715	-	-
総株主の議決権	-	17,194	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には当社所有の自己株式61株が含まれております。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
株式会社銀座山形屋	東京都中央区築地 三丁目5-4	779,000	-	779,000	4.32
計	-	779,000	-	779,000	4.32

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	699,126	441,200
受取手形及び売掛金	404,647	345,967
商品及び製品	166,520	164,307
仕掛品	15,229	18,358
原材料	142,224	136,515
その他	76,251	62,120
貸倒引当金	4,710	2,247
流動資産合計	1,499,288	1,166,222
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	151,762	181,281
その他(純額)	274,309	312,957
有形固定資産合計	426,071	494,238
無形固定資産		
その他	10,431	9,531
無形固定資産合計	10,431	9,531
投資その他の資産		
投資有価証券	1,010,416	1,073,437
敷金及び保証金	826,217	822,519
その他	342,101	327,659
貸倒引当金	113,996	98,263
投資その他の資産合計	2,064,739	2,125,354
固定資産合計	2,501,243	2,629,124
資産合計	4,000,531	3,795,347
負債の部		
流動負債		
買掛金	181,766	131,754
未払法人税等	11,178	19,736
ポイント引当金	36,735	32,382
その他	302,435	304,140
流動負債合計	532,116	488,014
固定負債		
退職給付引当金	493,375	499,856
役員退職慰労引当金	89,013	83,171
資産除去債務	219,429	226,910
その他	20,552	24,983
固定負債合計	822,370	834,921
負債合計	1,354,487	1,322,935

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,727,560	2,727,560
資本剰余金	882,948	242,303
利益剰余金	776,663	370,376
自己株式	79,225	79,264
株主資本合計	2,754,620	2,520,223
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	108,575	47,811
その他の包括利益累計額合計	108,575	47,811
純資産合計	2,646,044	2,472,412
負債純資産合計	4,000,531	3,795,347

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	2,058,089	1,826,567
売上原価	993,173	917,622
売上総利益	1,064,915	908,945
販売費及び一般管理費	1,288,192	1,192,154
営業損失()	223,276	283,208
営業外収益		
受取利息	1,655	1,416
受取配当金	30,579	27,586
受取手数料	6,494	5,541
貸倒引当金戻入額	-	18,196
雑収入	9,440	17,937
営業外収益合計	48,170	70,678
営業外費用		
支払利息	285	273
雑損失	4,664	900
営業外費用合計	4,950	1,174
経常損失()	180,057	213,704
特別利益		
資産除去債務履行差額	1,006	-
特別利益合計	1,006	-
特別損失		
固定資産除却損	564	-
投資有価証券評価損	-	1,881
固定資産処分損	976	-
減損損失	372	3,272
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	206,376	-
特別損失合計	208,289	5,153
税金等調整前四半期純損失()	387,340	218,858
法人税、住民税及び事業税	4,271	15,499
法人税等合計	4,271	15,499
少数株主損益調整前四半期純損失()	391,612	234,357
四半期純損失()	391,612	234,357

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	391,612	234,357
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	55,044	60,764
その他の包括利益合計	55,044	60,764
四半期包括利益	446,657	173,593
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	446,657	173,593
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	387,340	218,858
減価償却費	26,168	31,524
減損損失	372	3,272
投資有価証券評価損益(は益)	-	1,881
貸倒引当金の増減額(は減少)	1,631	18,196
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	5,125	5,842
退職給付引当金の増減額(は減少)	10,419	6,480
固定資産除却損	564	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	206,376	-
受取利息及び受取配当金	32,235	29,003
支払利息	285	273
売上債権の増減額(は増加)	138,318	59,706
たな卸資産の増減額(は増加)	21,655	4,793
仕入債務の増減額(は減少)	29,311	50,011
その他	83,022	57,367
小計	174,554	271,348
利息及び配当金の受取額	32,241	29,017
利息の支払額	285	273
法人税等の支払額	6,931	6,554
営業活動によるキャッシュ・フロー	149,531	249,158
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	24,925	21,315
投資有価証券の取得による支出	1,534	929
敷金及び保証金の回収による収入	46,579	9,459
敷金及び保証金の差入による支出	432	6,012
貸付金の回収による収入	12,264	14,705
その他	5,839	1,821
投資活動によるキャッシュ・フロー	26,111	5,913
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	-	38
リース債務の返済による支出	1,843	2,814
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,843	2,853
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	125,263	257,925
現金及び現金同等物の期首残高	680,390	699,126
現金及び現金同等物の四半期末残高	555,127	441,200

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額 は、次のとおりであります。	販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額 は、次のとおりであります。
給与手当 496,554千円	給与手当 492,374千円
賃借料 244,738千円	賃借料 217,179千円
退職給付費用 23,271千円	退職給付費用 15,379千円
貸倒引当金繰入額 1,631千円	ポイント引当金繰入額 4,352千円
役員退職慰労引当金繰入額 1,174千円	
ポイント引当金繰入額 4,531千円	

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借 対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年9月30日現在) (千円)	現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借 対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年9月30日現在) (千円)
現金及び預金勘定 555,127	現金及び預金勘定 441,200
現金及び現金同等物 555,127	現金及び現金同等物 441,200

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

配当に関する事項

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

平成23年5月24日開催の取締役会において、平成23年6月29日開催の第67期定時株主総会に資本準備金の額の減少及び剰余金の処分について、以下の内容について付議することを決議し、同株主総会にて承認可決されております。なお、本件は、「純資産の部」の勘定内の振替であり、当社グループの純資産合計に変動はありません。

(1) 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分の目的

繰越利益剰余金の欠損の填補を行うことを目的として、資本準備金の額の減少及び剰余金の処分を行うおととするものであります。

(2) 資本準備金の額の減少の要領

減少する準備金の額

資本準備金 593,587千円

増加する剰余金の額

その他資本剰余金 593,587千円

(3) 剰余金の処分の要領

減少する剰余金の額

その他資本剰余金 640,645千円

増加する剰余金の額

繰越利益剰余金 640,645千円

上記の結果、第1四半期連結会計期間において資本剰余金が640,645千円減少し、利益剰余金が640,645千円増加しております。当第2四半期連結会計期間末においては資本剰余金が242,303千円、利益剰余金が370,376千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	小売事業	卸売事業	受託縫製 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,026,246	744,818	273,672	2,044,737	13,351	2,058,089
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	920,373	920,373	920,373	-
計	1,026,246	744,818	1,194,045	2,965,111	907,021	2,058,089
セグメント利益又は損失()	144,618	56,200	57,988	258,807	19,933	238,873

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない持株会社としての管理業務、不動産賃貸業等を含んでおり
ます。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	258,807
「その他」の区分の利益	19,933
セグメント間取引消去	2,854
棚卸資産の調整額	434
その他の調整額	12,307
四半期連結損益計算書の営業損失()	223,276

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	小売事業	卸売事業	受託縫製 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	886,989	652,036	270,712	1,809,739	16,828	1,826,567
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	771,551	771,551	771,551	-
計	886,989	652,036	1,042,264	2,581,290	754,723	1,826,567
セグメント利益又は損失()	152,724	67,084	101,609	321,419	32,500	288,919

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない持株会社としての管理業務、不動産賃貸業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	321,419
「その他」の区分の利益	32,500
セグメント間取引消去	2,854
棚卸資産の調整額	2,355
その他の調整額	500
四半期連結損益計算書の営業損失()	283,208

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)
該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)
該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額	22円68銭	13円57銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(千円)	391,612	234,357
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額(千円)	391,612	234,357
普通株式の期中平均株式数(千株)	17,267	17,266

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月9日

株式会社銀座山形屋
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 齋藤 淳 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 平野 雄二 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社銀座山形屋の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析の手續その他の四半期レビュー手續が実施される。四半期レビュー手續は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手續である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社銀座山形屋及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。